児童虐待 対応詳しく

マニュアル・ハンドブック8年ぶり改訂

県、関係機関など配布

県内でも相次ぐ児童虐待事件を受け、県は児童虐待の対応マニュアルと対応ハンドブックを8年ぶりに改訂した。虐待のサインに気付くためのチェック項目や適切な対処方法などを詳しく紹介しており、子どもと接する機会の多い関係機関や関係者に配り、未然防止と早期発見につなげたい考えだ。

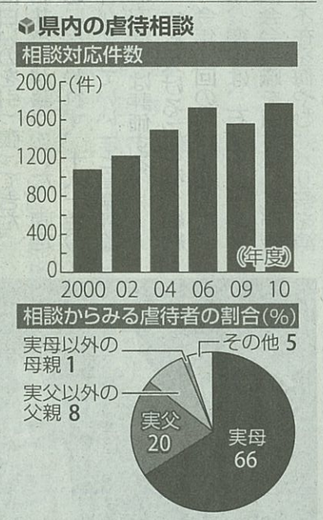
県児童家庭課によると、県内の児童相談所が2010年度に取り扱った児童虐待に関する相談件数は1767件。10年前の1・6倍に上っており、増加傾向が続いている。虐待の態様では、身体的虐待とネグレクト(育児放棄)が最も多く、全体の4分の3を占める。

改訂したマニュアルはA4判、27ページ。虐待の実情や関係機関が連携する仕組みなどを総合的な観点でまとめている。県の児童相談所が管轄する市町村のほか、警察署や小中学校、認可外保育施設などに約3900部を用意した。

一方、現場の関係者向けのハンドブック(A4判、6ページ)は、「保育所・幼稚園・認可外保育施設用」「小中学校用」「児童委員用」の3種類があり、約3万8000冊を配布した。

それぞれに①子どもが納得しているか②感情をぶつけるだけの叱り方をされていないか――など、虐待としつけの違いを見分ける注意点を列記。子どもの年代別に虐待を発見するポイントとしては、未就学児では「年齢に見合わない性的な言動がある」、小中学生では「男性または女性への恐怖心がみられる」などを挙げている。

同課は「現場には、虐待でなかった場合の責任問題や関係機関へ情報提供したことが漏れることに対する不安もある。しかし子どもを守るためにしっかりと向き合い、虐待を発見した場合の通告をためらわないでほしい」と呼びかけている。



派遣支援へ17日イベント

県内の音楽関係者らでつくる「九州・チェコ文化経済交流協会」が今夏、吹奏楽に取り組む高校生をチェコ共和国に派遣するため支援を呼びかけ[illegible]市)、糸島高(糸島市)など7校の約100人が派遣さ[illegible]にチャンスを与えたい」と、派遣する生徒の経済的な負担を軽減するため、旅費への支援として寄付を募っている。

ガードレールと壁を85か所固定

福岡・北九州都市高速

関越自動車道で今年4月に発生した高速ツアーバスの事故を受け、福岡北九州高速道路公社は14日、福岡、北九州両市の都市高速道路のガードレールとコンクリート壁の隙間計85か所を塞ぐ工事を行うと発表した。年度内に完了する予定。

関越自動車道の事故では、ガードレールと防音壁の隙間にバスが食い込むように衝突し、被害が拡大した可能性が指摘されている。公社が事故後に調べたところ、福岡高速13か所、北九州高速72か所で同様の隙間が確認された。工事費は約600万円で、ガードレールの一部を取り換えてコンクリート壁に固定する。

関門からはばたく ㉚

次世代照明に新たな光

ソラナ 省エネ性能はLED並み

倉光宏社長

電源を入れると、白く柔らかい光が事務所の壁を照らし出す。「明るさは十分なのに、電気料金がここまで下がるとは」。北九州市内の会社社長(49)は驚く。昨年6月、事務所と工場の蛍光灯約80本を豊光社(北九州市小倉北区)の次世代照明「ソラナ」に替え、月額50万円ほどかかっていた電気料金が半分になったという。

豊光社の本業は電子基板の設計。ソラナの開発に乗り出したのは、2008年のリーマンショックがきっかけだった。大手電機メーカーが主な納入先だったことから、受注が1割まで激減した。倉光宏社長(33)は「大手に依存しなくて済むように、自社製品の開発が急務だった」と振り返る。

新規事業を模索していた09年秋、電子機器開発会社「コックス」(久留米市)から、CCFL(冷陰極蛍光ランプ)を照明に転用する技術を紹介された。CCFLは、コピー機の読み取り光源や液晶テレビなどに使われる。LED(発光ダイオード)蛍光灯と同じくらい省エネ性能に優れ、寿命は蛍光灯の3~6倍、消費電力は6~8割に抑えられるという。

豊光社は培った基板設計の技術を生かし、CCFLを点灯させるのに必要な電源基板の開発に取り組んだ。電子部品を減らし、回路効率を上げ、小型化を進めて直径29ミリの蛍光管に内蔵した。また、灯管が割れるのを防ぐため、ガラスではなく、ポリカーボネート樹脂を主成分とするプラスチックに改良した。

半年後、東京で開かれた次世代照明の展示会で初めて披露。日なたを意味するスペイン語の「ソラーナ」にちなみ、商品名を付けた。また、価格もLED蛍光灯の3分の1ほどに抑えた。

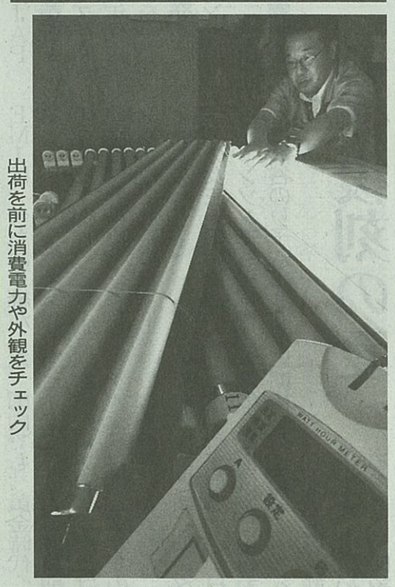
評判が悪ければ、商品化を断念する覚悟で臨んだが、倉光社長の懸念は杞憂に終わった。用意していたカタログ6000部が1日でなくなり、急きょ1万部を追加。3日後の最終日にはすべてなくなったという。

ソラナの営業を担当するライティング事業部の宮川勇彦さん(44)は「光に広がりがあり、まぶしさを感じないのが特長。取引先の飲食店から『客の滞在時間が伸びた』と喜ばれた」と胸を張る。販売開始から2年足らずで蛍光管タイプを7万本以上、売り上げた。

次世代照明とあって、行政も後押し。省エネ性能に優れた商品、サービスを表彰する北九州市の「北九州エコプレミアム」にも選ばれた。8月からは、タイで生産を開始、日系企業などに販売する予定だ。

倉光社長は「さらに品質を高め、全国に普及させたい」と意気込んでいる。

豊光社


出荷を前に消費電力や外観をチェック

豊光社　1969年に創業。有限会社を経て87年、株式会社にした。2011年8月期の売上高は約14億円。従業員30人。本社は北九州市小倉北区上到津2の7の30。☎093・581・4471。